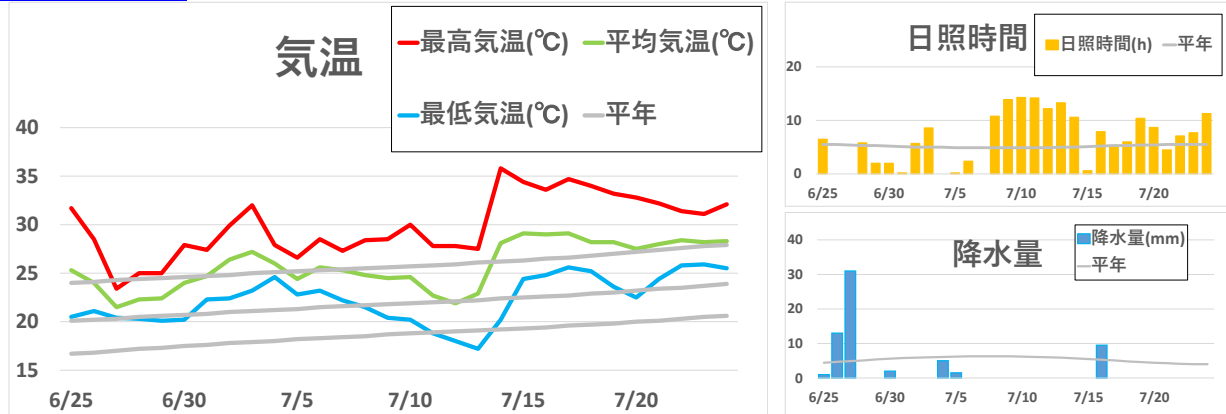


出穂は早まる見込み

～高温に対応した水管理と斑点米カメムシ類の徹底防除を～

1 気象経過と生育状況

【気象経過】 これまでの気象経過（アメダスポイント：能代）



気温は、最低・最高気温が高く、平均気温が高い日が続いています。

日照時間は、7月8日～24日にかけて多くなりました（平年比180%）。

降水量は、6月28日から小雨が続いています（平年比11%）。

仙台管区气象台から発表された1ヶ月予報では、今後も気温が高くなる見込みです。

【生育状況】

7月25日現在の管内水稻定点調査ほ（9地点、品種：あきたこまちR）の生育は、平年と比較して草丈が長く、茎数が少なく、葉色が薄い状況です。

本年は茎数が不足していることから、穂数が少なくなる見込みです。

多くの地点で減数分裂期を過ぎており、出穂期は早まる見込みです。

適切な水管理を行い、光合成活性の維持と根の活力維持に努め、一穂の充実を図りましょう。

【出穂期の予測】

日平均気温から算出したあきたこまち（中苗）の出穂期予測は、5月20日植えて7月30日頃（平年平均気温による予測：8月6日）となっています。

また、23日時点で走り穂が見え始めているほ場がありました。ほ場をよく観察し、適期作業に努めましょう。

○定点調査結果（7月25日）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色
本年	84.4	422	12.9	35.6
平年	75.6	475	12.5	39.0
前年	81.9	434	13.0	38.8
平年比較	112%	89%	+0.4	91%
前年比較	103%	97%	-0.1	92%

※平年は過去10カ年の平均値

※葉色はSPAD-502で測定した値

○出穂期の予測（アメダス能代）

田植日	出穂期
5月10日	7月25日
5月15日	7月27日
5月20日	7月29日
5月25日	7月31日

※7月28日以降は平年値で計算。

※出穂期：全茎数の40～50%が出穂した日。

少しでも穂が出ていれば出穂とみなす。

2 気象変動に対応した水管理

- 出穂期から開花期は最も水を必要とする時期です。出穂後10日間は、水を切らさないように管理します。高温が続く場合は、早朝や夕方に水の入れ替えをしましょう。その後は間断かん水か飽水管理（足跡に水が残る程度）とします。
- 今後の気温は高くなる予報となっています。気温が30℃以上になる場合、根の機能を維持するため、用水が確保できる地域ではかけ流しかん水を行ってください。かけ流しかん水が困難な場合は、落水期間の短い間断かん水を行うなど、水分供給と地温の低下に努めます。また、フェーン現象等で乾燥した風が強く吹く場合は、湛水状態を保ち稲体の消耗を軽減します。
- ★カドミウム含有米の発生が懸念される地域で「あきたこまちR」以外を作付けしている場合は、出穂期3週間後まで湛水管理を厳守し、カドミウム吸収を抑制します。

3 病害虫の防除対策

- 【いもち病（穂いもち）】7月25日に病害虫防除所が発表した「防除対策情報第8号」では、県北部で葉いもち発生ほ場が多い、穂いもちに注意と注意喚起しています。
- 今後出穂期を迎えるにあたり、上位葉への葉いもちの進展は穂いもちへの移行が懸念されますので、徹底した防除を行ってください。
- 葉いもちの発生が認められるほ場では、出穂15～7日前にコラトップ剤（粒剤5、1キロ粒剤12、豆つぶ）又はゴウケツ粒剤（サンブラス粒剤）のいずれかを散布するか、出穂直前（トライ剤かビーム剤）と穂揃期（トライ剤かラブサイド剤）に茎葉散布を行います。
- 葉いもちが多発している場合は、上記薬剤散布に加え、必要に応じて傾穂期にもラブサイド剤による追加防除を行います。
- ＜注意＞
- ・薬剤の成分によって総使用回数の上限が決まっているため、成分毎の使用回数を超えないように注意してください。
 - ・無人航空機による防除を計画している場合は、天候などにより防除適期を逃す場合があるので、個人防除でも対応できるよう務めてください。

【斑点米カメムシ類】

7月18日に病害虫防除所が発表した「防除対策情報第7号」では、すくい取りの結果から、畦畔などに出穂しているイネ科雑草があるほ場を中心に斑点米カメムシ類の次世代の発生量が多くなると予想しています。ほ場の出穂期※を確認し、適期防除に努めてください（※出穂期：ほ場全体の40～50%が出穂した日）。

- ① 1回目薬剤散布：スタークル剤又はアルバリン剤の茎葉散布剤を、出穂期10日後頃に畦畔を含めて散布します。
 - ② 1回目の薬剤散布後7日以内に農道・畦畔の草刈りを行います。その後はカメムシ類を水田内に追い込まないため、収穫2週間前まで草刈りは行いません。
 - ③ 2回目薬剤散布：斑点米カメムシの発生量が多いことから、本年の薬剤防除は2回散布を基本とします。特に、水田内に出穂したカヤツリグサ科雑草やノビエが発生しているほ場、休耕田等の雑草地に隣接したほ場では、必ず出穂期24日後頃にエクスード剤又はキラップ剤を畦畔を含めて散布します。
- ☆法面や休耕田等の雑草地は、稲の収穫2週間前までは草刈りをしないでください。
- ☆近隣に水稻以外の作物（野菜等）がある場合や、養蜂業者がいる場合は、薬剤散布前の情報交換を密にして、散布を実施してください。

気温の高い日が続きます。熱中症等に十分注意して作業を行いましょう！

不明な点がありましたら、山本地域振興局農林部農業振興普及課(Tel.52-1241)までご連絡ください。